

福岡市の住みやすさに迫る

九州大学工学部建築学科 3年 上杉真子

1. はじめに

「住みたい街ランキング 2020」において、福岡市は4位という結果になった。この「住みたい街ランキング 2020」とは、ウェイブダッシュが運営する地域応援サイト「生活ガイド.com」の会員1万8,963人が住みたい街として選んだ市区町村を集計したものである。また、2020年度版のランキングの集計期間は2019年4月から2020年3月までである。福岡市がランキングの上位に入るのは今回ばかりではなく、長年多くの街の中で上位に選ばれているのだ。そこで、福岡市が住みやすいとされる理由について、データ上で読み解いていこうと思う。

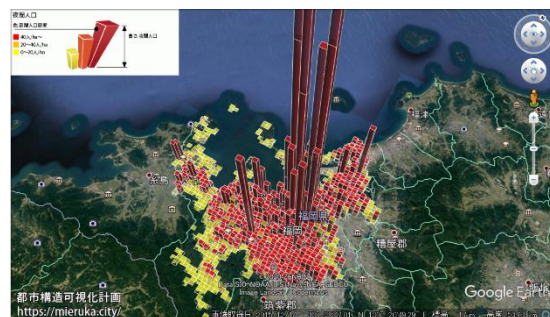
2020年 全国住みたい街ランキングトップ10

順位	住みたい街	前回順位(2019)
👉 1位	神奈川県 横浜市	1位
👆 2位	北海道 札幌市	4位
👉 3位	東京都 港区	3位
👆 4位	福岡県 福岡市	5位
👇 5位	東京都 世田谷区	2位
👉 6位	大阪府 大阪市	6位
👆 7位	兵庫県 神戸市	8位
👆 8位	愛知県 名古屋市	9位
👆 9位	京都府 京都市	11位
👇 10位	埼玉県 さいたま市	6位

※実際は100位まで発表。地域版はそれぞれ5位まで発表 ©生活ガイド.com

2. 基本データー住まいの分布（夜間人口）

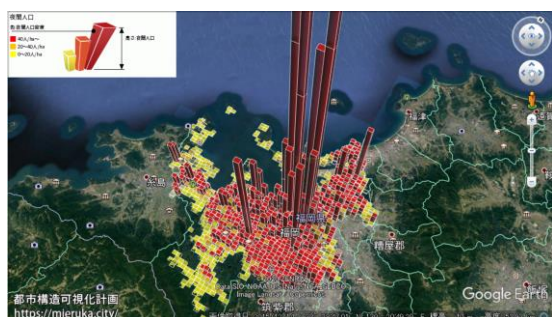
街の住みやすさにおいて、いくつかのデータを紐づけて読み解いていこうと思う。はじめに、人々の生活の拠点である住まいの分布をその基本データとする。人々の住まいがどこに集中しているかについて、夜間人口のデータを用いて分析したいと思う。右の夜間人口のデータは、福岡市の夜間人口密度を色の濃さを用いて表しているが、最も密度の濃い赤色となっている地域が広く分布していることが見て取れる。また、広域にわたって分布している赤色の部分において、都心部、東部、南部、西部をそれぞれ見たときに、それぞれの地域の拠点として集中的に住まいが分布しているエリアが見られる。



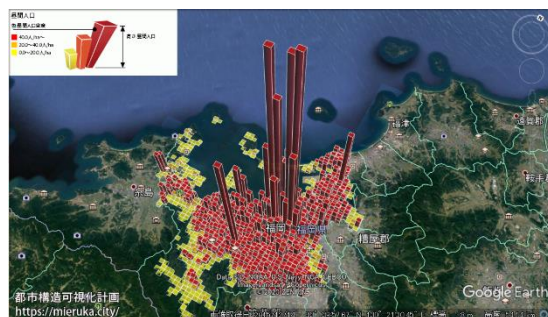
基本データ（夜間人口）

3. 比較データ①－職場の分布（昼間人口）

次に、先ほどの基本データと人々の職場となっているエリアを比較しようと思う。職場の分布を調べるために、昼間人口のデータを用いる。都市の中にはオフィスの集中するような働くための場所として機能するエリアとベッドタウンのように住まいとしての機能が集中するエリアとが分離されているところも多い。一方、福岡市における夜間人口と昼間人口のデータを比べてみると、いくつかのエリアは昼間人口と夜間人口を比べた時に大きく変化があるが、昼間人口の密度の濃いことを示す赤色の範囲は大きくは変化していないことが分かる。詳しく見てみると先ほどの地域ごとの拠点を担うところがより高い密度であることがわかる。このことから住まいと職場の距離が比較的近いこと、また、分散して拠点が存在していることで、福岡市が全体的に職住の両方の機能を担っていることがわかる。



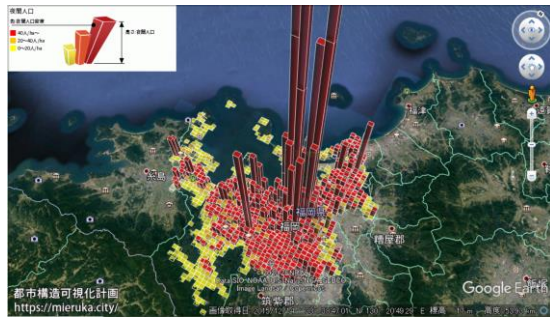
基本データ（夜間人口）



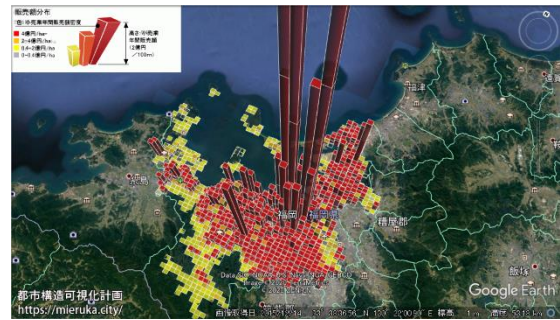
比較データ①（昼間人口）

4. 比較データ②－商業施設の分布（販売額）

さらに、基本データと商業が活発な地域を比較しようと思う。どのエリアで商業が盛んであるかを販売額の分布のデータを用いることで分析する。基本データと比べたときに、先ほどの昼間人口以上に密度の差が大きいことが見てわかるが、この分布に関しても小売業年間販売額の密度が高いことを示す赤色の範囲は、基本データと比べても、ほとんど等しいことが分かる。それほど福岡市は広い範囲で商業が発展しており、商業施設の数も充実していることが分かる。このことから、福岡市のどこに住まいがあっても、買い物の利便性が高いことが言える。また、職場の分布と同じく、それぞれの拠点で特に販売額が高く出ており、それぞれが核の役割を担っていることがこのデータにも表れている。



基本データ（夜間人口）



比較データ②（販売額）

5. 福岡市のめざしていく姿

夜間人口をベースとして二つのデータと重ねることで、住まいと職場、商業施設との関係性から福岡市の利便性や多機能性が可視化された。ここで、福岡市の定める都市計画について調べ、この可視化されたデータと重ねて考察したいと思う。福岡市基本計画では、福岡市のめざす姿として、「海や山に囲まれた地形的な特徴を活かし、都心部を中心に、まとまりのある空間的にコンパクトな市街地が形成され、都市的魅力と豊かな自然環境が調和し、市民が日常的にそれを享受すること」「福岡市の成長のエンジンである都心部を中心に、都市の成長を推進する活力創造拠点や、市民生活の核となる東部・南部・西部拠点、地域拠点などに、拠点の特性に応じて多様な都市機能が集積し、市民活動の場が提供され、交通基盤のネットワークにより移動の円滑性が確保された“福岡型のコンパクトな都市”の実現」を掲げている。このどちらにも「コンパクト」というキーワードが見られ、生活の中で利便性を感じられる街こそ、福岡市の理想像なのではないかと思われる。実際に、これまで見てきたデータを見ても、身近なところに市民の日常生活に必要な施設や機能が備わり、基本的な生活利便性が確保されていることがわかる。

6. まとめ

今回データを用いて分かったことは、福岡市の強みは「生活利便性にある」ということである。実際に福岡市で生活していても生活のしやすさは感じるが、データで見るとそれが顕著に表れた。生活の中で必要となる、「働くこと」や「物資の調達」が日常の生活圏に近いことが、福岡市が住みやすい街として多くの人の評価を得ている理由であると考えられる。福岡市のめざすコンパクトシティの考え方がデータとして見たときに実際の福岡市の姿と重なるということも、行政の取り組みや計画がうまく実現していることに結び付くだろう。

参考文献

「全国住みたい街ランキング2020」

https://www.seikatsu-guide.com/rank_sumitaimachi/

「福岡市基本計画」

http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/39879/1/6_5_kukan.pdf?20161130141141